

オキナワを逆から読むと？

いま那覇の前島や桜坂、農連市場などで「ワナキオ 2003」という広範囲で、しかも大規模なアートプロジェクトが展開中だ。

オキナワを逆から読むということに物を別の方向から見てみようという理念が込められている。

空き店舗を利用した美術展、子どもたちに創造の楽しさを体験させる企画、香港、上海、ソウルの街とアートの状況を伝えてもらうシンポも。

桜坂の一角で開催されている写真展は実にユニーク。

全国各地の農連市場内でコンクリートに刻まれた滑り止め用の鑿跡を撮り続けているアマ写真家の作品を美術家・永津禎三さんが企画した展示会である。

順に見て、最後に仏壇のような雰囲気のある棚に安置された写真家の文章を読むという流れ。

なぜ鑿跡なのか。写真展に至る物語を読み、企画者と話をするとあっと驚くどんでん返しが待っている。

小説家も顔負けの創作力に感心させられる。

翌朝、農連市場の現場を訪ねてみた。滑り止めは写真よりも深く表情豊かだった。そして確実にだれかがみんなのために汗を流した跡だった。

写真展で彼が示しているのは「記憶と物語」の大切さなのだ。

時代の流れや社会の変化で街がさびれ、空き店舗が増えるとすぐに再開発ビルという話が持ち上がる。

しかし、建築家の真喜志好一さんは「新築より模様替えを」と呼び掛けている。

記憶を消し去る街の再開発は見たくない。(真久田巧)